



真剣に説明を聞いています

## 神石高原町の春の自然を散策

5月21日(土)、油木地区5つの公民館と、居場所づくり実行委員会の主催で、「神石高原町の四季を楽しむ会」が行われました。

年4回を計画しており、今回は、吉川知之さんと中西正一さんの指導により、豊松の堂面洞窟遺跡から毘沙門洞までの道を、子どもや大人約50名が天田川沿いに歩きました。

遺跡を見ては、縄文時代に自然と共生した古代人に思いをはせたり、草花や清流を泳ぐ魚を観察したりしました。子どもたちは川ではしゃぎ、大人は昔の自分を思い出し、さわやかに楽しい一日を過ごしました。次回は夏の自然「星居山登山」です。

## 爆笑！ 吉本ミニ新喜劇&バラエティーショー

5月22日(日)、油木体育館で、「吉本ミニ新喜劇&バラエティーショー」が開催されました。

町青年会油木支部が企画、主催し、準備から運営までを、青年会メンバーが行いました。

当日は町内外から1,100人を超える来場者がありました。

豊松太鼓保存会の太鼓演奏で幕を開け、その後のミニ新喜劇や漫才、マジックでは、テレビなどでも活躍している俳優が舞台の上で

演じる笑劇に会場が湧きました。



会場を湧かせたミニ新喜劇



記録を出した菅寛子と紙ヒコーキ

## 飛んだ！飛んだ！風に乗って4キロ

米見山山頂公園にある「とよまつ紙ヒコーキタワー」から飛ばした「折り紙ヒコーキ」が4kmも飛行していたことが判りました。

記録を出されたのは、菅勉さん(下豊松)で、5月に家族と飛ばした1機。遠くまで飛んだため見えなくなったそうです。発見者は日谷廣茂さん(有木)で、檜林の手入れをしていたところ紙ヒコーキを見つけられました。

このヒコーキには名前が書かれており、今回のことが判りました。

タワーから飛ばす折り紙ヒコーキは空高く舞い上がり行方が判らなくともしばしば、遠方まで飛んだヒコーキが発見されることは珍しく、今回の大記録となりました。

## ホテル祭り

「第7回ホテル祭り」が、有木ビレッジハウス仁吾川で6月25日(土)午後7時から開催されます。当日は、ホテルの生態などが学べる「ホテル学習会」や「生息スポット案内」も行われます。夜店やビンゴゲームもあり当日は多くの人出で賑わいます。

この機会に幻想的な光をはなつホテルを見に訪れてはいかがでしょうか。

お問い合わせ先：豊松商工会青年部 ☎4-2007



ホテル学習会

## 地球にやさしい有機農業を ～神石地域堆肥センター～

神石地区にも待望の堆肥センター（新山団地）が完成しました。

4月21日（木）に町より、施設の管理運営を「神石高原有機農業をすすめる会」豊田耕三会長ほか会員7名が引き受け、本格的に稼働する運びとなりました。堆肥センターでは、昨今の化

学肥料に頼った農業を見直し、稲ワラと堆肥を交換するなど、特に農家と連携した循環型農業の推進を目指し堆肥利用拡大の取り組みをすすめていきます。

当センターでは、堆肥を用途に応じて袋詰めやバラで販売しており、希望があれば農地への配布も有料で行います。

安くて良質な堆肥を利用した有機農業で、品質の良い農産物の生産が期待されています。

注文及び問い合わせ先：

福山市農協神石グリーン ☎ 7-0005



## 『子供から老人まで現代に必要なエゴマ油』 ～神石高原エゴマ搾油の会～

『神石高原エゴマ搾油の会』主催による講演会が、5月23日（月）、総合交流センターじんせきの里で開催されました。

講師の岐阜・白川エゴマの会代表服部圭子さんは、成人病予防などエゴマ油の様々な効果について、ご自身の経験をお話しながらわかりやすく講演されました。

参加された約50名の方は、終始熱心に耳を傾け、『また、このような機会を…』という声も聞かれ、有意義な講演会となりました。

エゴマとはシソ科の1年草で、最近ブームとなっております。神石地区では栽培や搾油も行われており、主催者は

今後もエゴマ栽培普及に向けて、町内外へ情報を提供していきたいとのことでした。



興味深い講演でした



## やまなみ劇団結成一周年記念「ありがとう公演」

5月29日（日）、さんわ総合センターで、劇団結成一周年記念公演が開催されました。

町内の介護施設より招待した約20名を含め、会場には約200名が訪れ、三味線の演奏に合わせた迫力ある殺陣や工夫を凝らした舞台に観客は見入っていました。

会場では募金も行われ、集まったお金は社会福祉協議会へ寄付されました。

劇団では、今後の活動に向け、劇団員を募集されていますのでお気軽にお問い合わせください。

お問合せ先：☎ 5-2608（高橋まで）



迫力ある殺陣場面



## ボランティアグループ「ゆめさんわ」

「ゆめさんわ」は、さんわ総合センターを中心に地域住民と青少年が自分たちの地域を自分たちの力で、ボランティア活動を通じて、明るく住みよまにしよう、60名を超えるメンバーで活動されています。

公共施設等の草刈りや花植え、ホテルの里づくり等、小・中学生と協力して積極的に取り組まれています。こうした活動が評価され、昨年に続いて財団法人マツダ財団より活動支援金が贈呈されました。

「ゆめさんわ」会長の梅岡啓壽さんは、今後も地域の自然環境美化という目標に向けて積極的に活動していきたいとのことでした。



さんわ総合センター周辺

